



syoun



2017 July

No.539

地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人權と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

ハイパーサーミア装置導入によるがんの集学的治療

この度、当院はハイパーサーミア装置を導入しました！！



当院では「サーモトロン-R F8 EX Edition」と呼ばれる専用機器を使用しています。



多職種連携にて治療を行っています。

ハイパーサーミアとは、がん細胞が熱に弱いことを利用し熱によってがんを治療することを言います。がん細胞は42.5℃以上の熱に弱いことが分かっています。ハイパーサーミアでは、高周波電磁波を用いてがん病巣を42.5℃以上に加温することにより腫瘍を壊死させたり、大きくしないことを目的としています。

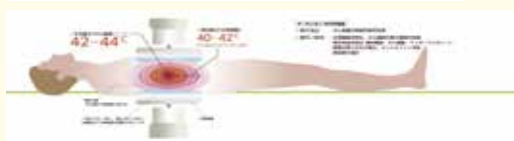
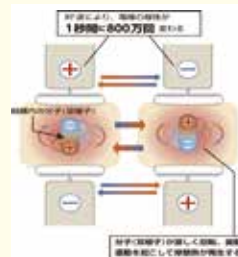
ハイパーサーミアは副作用がほとんどなく安全にがん治療を行なえます。

また、ハイパーサーミアは、がんの治療としてよく行なわれる放射線治療や化学療法（抗がん剤による治療）と組み合わせることで効果を高めます。放射線治療とでは放射線によるがん細胞への攻撃性を強められ、さらに、がん細胞の修復が阻害される効果があると言われています。抗がん剤とでは、がん周辺の血流が加温によって良くなる事で抗がん剤を病巣により多く到達させ、さらに、薬剤滞留時間を延長させることにより、がんへの攻撃性が強められると言われています。

このような装置を導入したことにより、当院では、手術、化学療法、放射線治療、高気圧酸素療法などの治療との組み合わせにより集学的治療を提供でき、がんの治療はもちろん、日常生活に直結する痛みの緩和や浮腫の改善、がん治療に対する体

加熱のしかた

高周波と呼ばれる1秒間に800万回プラスマイナスが入りかわる電気を流します。



力の改善、免疫力の増進など、様々な治療の専門のスタッフが効果的な治療をご提案し、患者様、又そのご家族とともに「納得できるがん治療」を目指していきたいと思います。

運用時期：平成29年8月から運用を開始しております。

治療の流れ：治療をご希望の際は、当院予約センターまでご連絡をお願い致します。

担当医の診察を行い、治療を計画していきます。

<ご予約先>

JCHO 人吉医療センター 予約センター 0966-22-1900

<治療に関するお問い合わせ>

JCHO 人吉医療センター 画像診断センター 放射線治療室
0966-22-2191 内線 (550)

機器について：機器の詳細は、下記のURLにアクセス下さい。

山本ビニター株式会社

(http://www.vinita.co.jp/medical_div/)

「人吉・球磨の地域医療構想について」

今回「人吉・球磨の地域医療構想」について人吉医師会会長 岐部 明廣先生にご執筆いただきましたので、掲載させていただきます。

人吉・球磨医療圏は人吉医療センターの充実および人吉市医師会・球磨郡医師会との連携によって患者さんの流入（6%）・流出（18%）と比較的出入り少ない完結した医療圏と言えます。人吉医療センターは宮崎県のえびの市や鹿児島県伊佐市からの患者さんの流入がありますのでさらに広い医療圏といえるでしょう。

今の人吉球磨の人口約8万9千386人（五月一日現在）が、今後10年毎に約1.2～1万人ずつの減少が予想され、過疎化の波をもろに被ります。さらにゆゆしき問題は働く世代の15～64歳の人口減少です。十八年後の2035年には働く世代の15～64歳の人口が今より1万5千人も減少して3万1千人になる予想です。マンパワー（人手）の不足が徐々に顕著になってくると思われます。一方、75歳以上の人吉・球磨医療圏の人口は現代17,700人ですが、十三年後の2030年には今より1千200人多く、十八年後の2035年でも8百人多いと予想されています。そのことは人口が減っても医療・介護を必要とする高齢者が今後十八年間はさほど減少しないということです。

人吉球磨の地域医療構想は

- ① 病床機能の分化（超急性期、急性期、回復期、慢性期）と
- ② 医療・介護・在宅の連携強化で

現代の病床数1433を940床へと約500床減少させ、それを在宅医療等で補おうとする構想です。木村正美先生が人吉医療センターの院長になられてから当地域の病床機能の分化は進んでいます。

病床機能の分化とは、

- (1) 超急性期、急性期の患者さんの診断と治療には高度な技術を持った専門医あるいは高価な機器や設備が必要となるでしょう。限られた設備や専門医の集約化が必要です。
- (2) 回復期になるとPT, OT, STなどのリハビリに関わる職種のスタッフが多く必要となります。慢性期にも機能低下の予防のリハビリは必要です。

人吉医療センターを中核にして、それぞれの医療機関、老健施設、訪問看護ステーション等が連携を強化して、超急性期→急性期→回復期→慢性期→在宅医療の患者さんの流れをスムーズにすれば、人材・施設を効率良く使うことができます。

今後のマンパワーの不足で地域医療構想が実現可能かどうかはわかりませんが、智慧を出し合って地域住民のための医療構想を推し進める必要があります。

人吉市医師会会長 岐部 明廣



ハワイ研修を終えて

6月27日、28日にハワイ大学のSim Tiki Simulation Centerで行われました研修に研修医4名で参加させていただきました。

青い空、綺麗な海の誘惑に飛び込みたくなる衝動をこらえ、タクシーでハワイ大学医学部まで通いました。

研修1日目はアメリカの医学部や研修の制度、シミュレーション実習についてのレクチャーの後、当直中の救急患者への対応について、2日目は小児救急と病棟での急変患者への対応についてシミュレーターを使って学びました。

家族や看護師役の先生から情報を聞き出し、モニターや身体所見から診断を考えながら投薬や心肺蘇生などを行いました。

1つのシナリオが終わると、録画されたビデオを見ながら自分たちの行動を客観的に見ながら、良かった点、改善点などを話し合いました。シミュレーション中には気づくことができなかった点にも気づくことができ、その反省を次のシナリ



オに活かすことができました。

様々なシナリオがありましたが、どれも common disease であり、日常診療で活かすことの出来るものばかりでした。

2日間ではありましたが、非常に丁寧でわかりやすいレクチャー、シミュレーションを通して多くの知識を得ることができました。

このような素晴らしい機会を与えてくださった全ての方に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

臨床研修医 白川 真実



離島医療研修を終えて

初期研修医2年目の中垣です。当院の基幹型研修医としては、初めての試みとして鹿児島県大島郡沖永良部島にあります朝戸医院にて6月の1ヵ月間地域医療研修を行ってまいりました。朝戸医院では院長の朝戸末男先生、副院長の朝戸俊行先生をはじめ、多くのスタッフの方々に大変優しく迎えていただき多く

のことを学ばせて頂きました。

学校健診や末期患者の往診など島ならではの経験もさせていただき、本当に島の方々にはお世話になりました。西郷隆盛のゆかりの地であったりと観光名所も多いので、興味のある方は是非、訪ねてみてください。9月には同じく研修医2年目の鮎田先生も同施設にお世話になる予定です。9月は台風の季節ですが、笑

臨床研修医 中垣 祐紀

登録医リレーエッセイ Vol.25

今年の4月から水上村の古城クリニックの院長として勤務することになりました猪山陽介と申します。

経歴としては熊本市で育ち、熊本高校を卒業し浪した後に熊本大学医学部に入りました。卒業後は沖縄で初期研修を行った後に、福井県の家庭医養成コースに3年間所属し総合診療・家庭医療を学んできました。コースが終了した後学生時代からお世話になっていたひとよし内科理事長の山田和彦先生に声をかけていただき、古城クリニックの院長として働かせてもらうこととなりました。週1回木曜日の午前是人吉リハビリテーション病院、午後は人吉医療センターの救急外来で勤務させていただいております。総合診療・家庭医療を学んできましたので、診療内容としては内科から小児科、整形外科、またエコーや胃カメラも行っており、自分で対応できないものや手術が必要なものは救急病院や専門病院に紹介させていただいております。老若男女問わず、どのような悩みにも気軽に相談・対応できる医師を目指しております。

人吉球磨で勤務しながら思うことは、人柄がとてもいいこと

です。人吉に来るとお人好しになると誰かが言っているのを耳にしましたが、本当にそうなんだなと思いました。yahoo知恵袋を見てみると、むかし宿や舎のことを「ひとよし」と呼んでいたからそこから来ているとの説があり、あまりお人好しとは関係ないとのことですが、どうなのでしょう。また自然豊かで人吉球磨の文化の深さも非常に魅力的です。

自分が今まで学んできたことを人吉球磨の方に貢献させていただき、健康面も含め少しでも日常生活がより一層快適なものになるよう努力していきます。またその中で自分も日々成長していきたいと思います。

今後ともよろしくお願いします。



古城クリニック
猪山 陽介

スタッフ紹介

手術看護認定看護師

認定看護師は、実践・指導・相談を3本柱として活動しています。

その中で、手術看護認定看護師として医療者に向けての今後の活動をご紹介させていただきます。

熊本県内では、現在、4名の手術看護認定看護師が県内及び九州内での手術看護に関連した研修を行っています。この人吉・球磨地域での研修は、ほぼ行われていません。しかし、平成28年度に行った調査では、地域で手術看護に携わる看護師

は地元で開催される研修会を希望していることがわかりました。

そこで、本年度より人吉球磨地域での研修会を開催いたします。詳細が決まり次第、ご案内いたします。現在、手術看護に携わる方はもちろん、手術看護に興味のある医療に従事する皆様のご参加を心よりお待ちしております。



手術看護認定看護師
尾方 陽子

クラーク

当院では、2008年11月に医師事務作業補助者（以下、医療クラーク）が導入され、今年で9年目を迎えます。当初2名での始動でしたが、現在は21名に増員され、業務の幅を広げています。内容としては、「文書作成」「診療記録の代行入力」「診療に関するデータ管理、統計・調査を含む事務作業」「行政上の対応」の4種とされています。

現在、配属されている産婦人科では、外来の診療支援を担当していますが、デリケートな問題を抱える患者さんにも出来るだけ不安を与えないよう、親しみやすい雰囲気心がけています。特に最近では、産後うつ予防への取り組みなど、妊産婦の

心の健康にも関わりを深めています。日々進歩する医療現場において、私たち医療クラークも個々の専門性を高め、患者さんと医療スタッフの架け橋となるようなコーディネーター的役割を担えるよう成長していきたいと思っています。



産婦人科外来 クラーク 春口 裕子

言語聴覚士 (ST)

言語聴覚療法とは、医療、介護、福祉、学校教育の分野において、発声発語機能、言語機能、聴覚機能、高次脳機能、摂食・嚥下機能などに障害のある人に対し、言語聴覚士 (ST: Speech-Language-Hearing Therapist) が検査、訓練および助言、指導そのほかの援助などの専門的関わりによって、対象者の機能の獲得や維持・向上を図り、生活の質の向上を支援することです。

当院の言語聴覚療法部門はH18年度より開設しており、現在、言語聴覚士2名が常勤しています。急性期医療機関として、医師の指示の下、早ければ入院当日から言語障害や摂食・嚥下障害に対して検査・訓練を行っています。特に摂食・嚥下

障害については、適切な評価に基づいた安全な栄養摂取手段の検討という点でニーズは高く、各診療科の医師や看護師、管理栄養士と協同して対応しています。他の病院や施設とも連携が取れるよう、転院時には情報提供書を作成しています。

リハビリテーションセンター
言語聴覚士 吉本 珠実



医療安全院内研修会に参加して

医療安全院内研修会

**ポジティブな医療安全活動を目指して
～レベル0報告：未然防止・発見報告を増やそう！～**

医療安全院内研修は全職員対象に年2回行われ、今年度1回目が6/13～15の3日間に行われました。今回は「ポジティブな医療安全活動を目指して～レベル0報告：未然防止・発見報告を増やそう！～」というテーマでした。

医療現場では事故に繋がりにくいようなヒヤットしたり、ハッとした出来事（インシデント）があった時、レポートを書いてその事例を分析し、類似するインシデントの再発や予防に取組んでいます。「誰が起こしたか（責任追及）」ではなく「何が事故を招いたか」を部署内あるいは事例によっては病院全体で情報を共有することが目的です。

しかし、インシデントレポートについて多くのスタッフがマイナスイメージを持っています。確かに、私もインシデントレポートについてあまり良い印象は持っていませんでした。失敗を報告書に書かないといけない、反省文のようで嫌だ、書くことが面倒臭いなど。また、どのくらいのミスからインシデントレポートに書かなければいけないのかということもしっかりと理解できていませんでした。そのため積極的なインシデン

トレポートを提出できていなかったと思います。

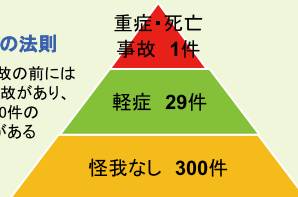
インシデントレポートは起こった出来事が患者さんへの影響度によってレベル分類されます。患者さんに実施する前にミスに気づいた、未然に防止できた、発見した事象を「レベル0」、患者さんへの影響が軽度から重度へ「レベル1から5」へととなります。1件の重大事象が起こる前には軽度なものが330件起きていると言われているそうです。1件の重大事象を起こさないためにも、レベル0報告をはじめ軽度な事例の報告を行い、共有し合い、早期の再発防止の取組みが重要とのことでした。

今回の研修は私にとってインシデントレポートというものをも再認識することができました。これまで「少し失敗したけど患者さんに関係がないから大丈夫だろう」と思い報告してこなかった事でも『レベル0』として積極的に報告して、再発防止に取組んでいきたいと思っています。

臨床工学技士 梅木 南志

ハインリッヒの法則

1件の重大事故の前には
29件の軽い事故があり、
その前には300件の
ヒヤリ・ハットがある



性教育講演会「生と性」

平成29年7月12日、球磨中央高等学校にて1年生117名を対象に当院産婦人科部長 大竹秀幸医師が性教育講演を行いました。

今回の講演は、男女の性・妊娠・性感染症・エイズ等の性に関する正しい知識を得る事により、責任ある意思決定や行動の選択ができる生徒の育成を目的に開催されました。

「生と性」の光と影について、様々な角度から画像や動画を交えたスライドに生徒さん達も集中して聞かれています。代表の生徒さんより、これからの人生の選択に今回の講演の内容を活かしていきたいと感想を述べられました。

医療福祉連携室 杉松 紗織



院内感染研修会 開催

7月3・5・12・31日に全職員を対象とした感染の研修会が行われました。

私たちの身体にはどのような微生物が存在しているかわかりません。患者さんと携わる中で医療従事者が感染経路とならない為にも標準予防策を実施し予防していくことが大切だと振り返ることができました。

廃棄物でも捨てて終わるのではなく分別し、決められた容器に廃棄することで針刺し事故や感染を防ぐことができます。針刺し切創、血液・体液曝露があった時は必ず報告する事、ワクチン接種・治療・フォローアップを行うことで自分自身を守ることができ感染を予防することができると学びました。

今回の研修で学んだ知識を現場で行えるよう日々心掛けていきたいと思っています。

6階病棟 看護師 中渡 美紀

～難病の医療受給者証をお持ちの皆様へ～ 平成29年12月31日で経過措置が終了します

平成26年12月31日以前から特定医療費（指定難病）受給者証の交付を受けていた方は、自己負担上限額や支給認定における3年間の経過措置が平成29年12月31日をもって終了します。

新制度の申請を12月までに行った方は、自己負担の軽減などが行われます。

経過措置が終了することに伴い、以下の点が変更になりますので、ご留意下さい。

●更新申請の審査方法が変わります。

平成29年度の更新申請から重症度分類を満たす必要がありますので、昨年度と症状が同じでも不認定となる可能性があります。申請するかどうかは主治医とよくご相談下さい。

●毎月の自己負担上限額が変わります。

- ①重症患者認定の廃止
- ②自己負担上限額の変更（一部）
- ③高額かつ長期の適用

入院時の食費については、1/2自己負担から全額自己負担になります。

詳細は、「難病情報センター」のホームページまたは、お住まいの都道府県・保健所へご確認下さい。

医療福祉連携室 田頭 隼人

連携施設 探訪

当院は、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して 地域 包括ケアを推進していきたいと考えています。そこで、地域の社会資源を周知していただくため、連携施設をご紹介します。今回は「介護老人保健施設 タンポポ」さん、「特別養護老人ホーム 龍生園」さんです。

「介護老人保健施設 タンポポ」 介護老人保健施設 Vol.7

当施設は平成10年10月29日に開設し、今年で19年目の介護老人保健施設となりました。場所はサンロードシティ（イオン錦）の道向かいに位置する、モダンな3階建ての建物でオレンジ色を基調とした明るい色内装になっています。

入所施設は2階フロアが一般療養棟で3階フロアが認知症専門棟になっており、それぞれの専門性を生かしながら4人部屋・3人部屋・2人部屋・個室の合計80床でリハビリをかねて療養できるようにしています。

また1階にある通所リハビリテーションには、1日60名のご利用者の受け入れが出来る体制になっており、レクリエーション・カラオケ・大浴場にある温泉等を楽しみながらリハビリを受け

る事が出来るようになっていきます。今後とも皆様の健康の維持管理に貢献できますよう、スタッフ一同よりいっそうの努力を重ねてまいります。

「本当の愛は、タンポポの根のように強くタンポポの花のように美しい、そしてタンポポのタネのように四方に幸せの輪を広げてゆく」

坂下真民・詩

記念碑 念ずれば花ひらく

事務長 高岡 政明

【お問い合わせ先】

TEL：0966-25-1551

生活相談員 米来 みどり、澤見 誠



「特別養護老人ホーム 龍生園」 介護老人福祉施設 Vol.8

【施設の特徴】

龍生園では、「ユニットケア」を生活支援の方法として取り入れています。約10名単位の「ユニット（グループ）」を一軒の「家」として考えて、職員も家族の一員として固定し、入居者と「なじみの関係」が築けるようにしています。

暮らしの面、そして食の面から支援させて頂き、「暮らしを支える」関わりの中で、龍生園が第二の我が家になるよう支援いたします。

【サービス内容】

特別養護老人ホーム：定員 117 名

常時の介護を必要とし、かつ、居宅においてこれを受ける事が困難な方に対して、家庭に代わる生活の場として、入浴・排泄・食事の介護等日常生活上の支援、機能訓練、健康管理、栄養管理及び療養上のお世話を提供します。

・併設サービス（短期入所生活介護（16名）、通所介護（35名）、居宅介護支援事業、人吉市介護予防・日常生活支援総合事業通所サービスA）

【地域の皆様に一言】

当施設は「すべての人を自分の親だと思って・・・」という基本理念の下、家で家族と最後まで一緒に過ごすことはできなかったけれど、龍生園で「最後までここで暮らせて良かった。」

と思って頂けるように、職員一同、日々の暮らしのお手伝いをさせていただきます。

その中で、地域の皆様にも入りやすい施設となればと考えております。【どんなところか見てみたい。施設のスペースを趣味活動等に使用したい。売店で品物を売ってみたい。】等なんでもお気軽にご相談ください。施設見学も随時お待ちしております。

【お問い合わせ先】 TEL：0966-22-6621

生活相談員 瀬尾 祥美、高橋 信子

施設統括部長 東 誠二

【訪問スタッフの感想】

施設を訪問し、まず庭の広さにびっくりしました。木々に囲まれた施設は、自然の風を感じることができ、とても心地良かったです。また、施設内に充実した売店（お菓子や日用品など）があることにも驚きました。



第2回幸幸幸（こうぞう）杯で 当院フットサル部が3位になりました！！

6/26、7/9に人吉スポーツパレスで第2回幸幸幸杯（フrendリーの部）が開催され、当院フットサル部が3位になりました。昨年も出場したこのフットサル大会は、人吉球磨より全14チームが参加し、予選リーグはじめ、決勝リーグ・決勝トーナメントと試合が続く大会です。

普段から練習ができておらず、ぶっつけ本番での出場となりましたが、老骨に鞭を打って、きつくなったら、すぐに交代を

繰り返し、予選、決勝リーグと勝ち進みました。決勝トーナメント（準決勝）では惜しくも負けてしまい、3位決定戦に回りましたが、手ぶらでは帰れないと最後一致団結して、勝利を手に入れました。予選落ちが多いチームなので、今回は大変素晴らしい結果が残せました。今後、今回以上の結果が残せるように頑張りたいと思います。また、最期になりましたが、応援に来ていただいた皆様、大変ありがとうございました。



フットサル部 永田 哲也

天使の知恵袋

6月15日(木) 福島保育園において、保護者、保育士に向けた天使の知恵袋(小児 出前講座)を開催しました。今回は、「発熱・嘔吐・熱性けいれん、手洗い」についての講座でした。

今回は、平成28年9月に就任された師井医師の初めての講座で、演劇やギャグを加えたスライドとなっており、受講された方の笑いを誘うものとなっていました。内容は、質問形式で受講者も参加し一緒に考えることができ、とてもわかりやすいものでした。

今回の講座を受講された方の感想を頂きましたので、以下に掲載させていただきます。

医療福祉連携室 今井 志帆

・病気の時の対応を勉強させていただきましたが、何度聴いても、その時になれば、慌ててしまっているなと思いました。熱、嘔吐、けいれんなどの対応時、一つ一つ丁寧に話していただき、勉強になりました。また、手洗いの仕方の難しさも感じました。今回、指導していただいたことをもう一度、子供達と実践し感染症予防に努めたいと思います。

・今回救急法では、様々な病気や手洗いの仕方について学びました。特に手洗いは、ただ石鹸で洗うのではなく、爪の中、手首もしっかり洗うことが大切だと実感しました。

・わが子の病気となると、やはりどうしたらいいのかとパニックになったり、心配になったりするので、今回のような話はとても役に立ちました。毎年一度は聴き、忘れないようにしたいと思います。

・手洗いの仕方を改めて確認でき、自分自身の日頃の手洗いを見直すことができました。

・講演を聴いて、様々な症例をわかりやすく学ぶことができました。保育現場でも自分の子供が出来た時など役に立つと思いました。手洗いもきちんとしているつもりでも、まだ汚れが残っているのもっと注意したいと思いました。

出前講座の依頼は随時受け付けております。

お問い合わせ：医療福祉連携室 TEL：0966-22-2191 (内線240)



ボランティア紹介



浦野 スソエさん



梅田 ルリ子さん



堤田 明美さん

ボランティアスタッフとして、新たに3名の方が仲間入りされたのでご紹介いたします。

堤田明美さんと梅田ルリ子さん、浦野スソエさんです。主に「くま川がんサロン」で活動されています。

「くま川がんサロン」は、患者さんやご家族が病気について気軽に本音で語り合える交流の場です。

堤田さんは、「自分の治療経験が役立てば」との思いで、「がんビ

アサポーター」として参加されています。経験に基づいた傾聴やアドバイスなどをお願いしております。梅田さんと浦野さんは、地域の傾聴ボランティアグループ「ぬくもり」のメンバーです。同グループ会長の久保山真さんらメンバーが、当院で活躍される様子を見て応募されたとのこと。「患者さんやご家族の様々な思いを聴くことで支えになれば」と意欲を燃やされています。新たに入った3名をはじめ、ボランティアが頑張っている姿を見かけられた際は、お気軽にお声かけください。どうぞよろしくお願いいたします。

今は、ボランティアもチーム医療の一員として活躍する時代です。当院でも随時ボランティアを募集しております。「がんピアサポーター」とはピア(仲間) + サポート(支援) = 「治療経験者など同じような立場によるサポート」を意味します。「傾聴」は「聴く」ことを通して、患者さんや家族の心を少しでも軽くする活動です。その他、受付案内や移動支援、図書整理、レクレーション(ぬり絵・アロマセラピー)のお手伝いなど様々な活躍の場がありますので、興味のある方は医療福祉連携室までお問合せください。

医療福祉連携室 南 秀明

新任紹介



齋藤 夏海(薬剤部・薬剤師)

最終卒業校：福岡大学

趣味：水泳、バスケットボール、書道

モットー：笑顔、丁寧

自分の性格：のんびりマイペース

自分のコマーシャル：4月に佐賀から引っ越してきました。週に2日の勤務ですが、一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。



松永 筆子(予防医療センター・臨床検査技師)

最終卒業校：熊本大学

趣味：ボランティアに近いことが好きかな...

生活信条：毎日を楽しみ前向きにがんばりたいといっ

も思っています。

自分の性格：かなり世話好きですが、やりすぎてよく失敗します。

自分のコマーシャル：4年半ぶりの現場です。忘れてしまった記憶を思い出せるよう頑張ります。



池田 絵理(7階病棟・クラーク)

最終卒業校：熊本県立球磨商業高等学校

趣味：カラオケ、グルメ探索

モットー：笑顔と感謝

自分の性格：明るく、よく話をする

自分のコマーシャル：早く仕事を覚え、ご迷惑をおかけしない様、頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

7月の勉強会報告

7月6日(木)九州・沖縄地区Innovation WEBセミナー

「がん治療に欠かせない漢方薬Part2(副作用軽減等を中心に)」
広島大学大学院医歯薬保健学研究院 漢方診療学 教授

飯塚 徳男先生

7月13日(木)第94回消化器カンファレンス

「大網梗塞の1例」

当院 協力型臨床研修医 光浦 智証先生

「食道メラノーマの1例」

当院 消化器内科 西村 淳先生

7月21日(金)人吉球磨医師会学術講演会

「当院の認知症ケアチームの取り組み」

当院 山口 幸恵 認知症看護認定看護師

「不定愁訴やせん妄にどう対処するか〜気づいていますか?」

その外来患者さん、実はせん妄が起きていますよ〜」

医療法人名薫会 長嶺南クリニック 副院長

北 英二郎先生